



EXCITING DUATHLON GRAND PRIX CalfMan Japan



深浦祐哉が接戦を制し、日本選手権覇者の実力を証明！

カーフマンジャパン2006、第2戦東海ステージが11月26日、国営木曾三川公園で開催された。昨年のポイントランキングチャンピオン・森正（宮川医療少年院デュアスロンクラブ）、2006日本選手権覇者・深浦祐哉（ハアズ/POWER PRODUCTION/SUNNY FISH）、2005日本選手権覇者・高橋泰夫（Team CW-X タカイワ染工）らの強豪デュアスリートに加え、カタールのドーハで開催されるアジア競技大会のトライアスロン競技に日本代表選手として参加する山本良介（トヨタ車体）も参加、まさに今シーズンの行方を占う顔ぶれがそろった。



号砲とともに飛び出したのが、飯干守道（ウィングスT.C）。学生時代に箱根路をも走った経験を持つ飯干は持ち前のスピードで後続に差を広げる。



これを追うのは、中田崇志（関東 RC/味の素/Giant）を先頭に、深浦、森、高橋、山本らの有力選手を含む集団。

第1ランほぼ中間地点で飯干を吸収し、集団は6人に絞られた。

素晴らしい飛び出しを見せる飯干

キロ3分を切る中田の快調な走りから、4周目、ついに高橋が遅れだす。その差はじりじりと広がり、最終的には第1ランのラップタイム差わずか10秒で、高橋は先頭集団から取り残される事となった。

第1ランで高橋を集団から落とすことに成功した5人はバイクに移っても激しい攻防を見せる。向かい風と追い風、50:50のコース状況で、集団の平均時速は約43km。これではバイクの強い高橋でも単独での追撃は不可能。結局高橋は、先頭集団からは大差をつけられ、後続の三木琢矢（AINA.AC）らに吸収され第2バック3人で先頭を追うことになってしまった。



一方、5人の先頭集団にドラマが待っていたのは3周目。ついに飯干が集団のスピードについていけず、ふるい落とされる。一度遅れると、その差はあっという間に広がり、3分以上の大差がついて、ここでランの力に定評のあった飯干が優勝争いから脱落した。

飯干をふるい落とした集団

深浦を先頭に、森、中田、山本



すばやいトランジッションで飛び出す山本と深浦

バイクを終えると、まずトランジッションで足が痙攣した中田が大きく出遅れる。すばやいトランジッションで山本、深浦が飛び出す。森はトランジッションで出遅れ二人を追う展開になるものの、持ち前の第2ランの切れのある走りを見せる。

1周1.25 kmの周回コースの第2ラン。1周目を終える頃には山本をパス。2周目に入ると、森がついに先頭、深浦に追いつく。



二人のマッチレースは日本選手権の再現

レースの終盤、優勝争いは、昨年の日本選手権同様、森と深浦のマッチレースになった。そして、最終周、ついに深浦ロングスパートで森を振り切り約20秒の差を付けて東海ステージ初出場、初優勝を飾った



最後は王者の貫禄でフィニッシュ

一方、エリートに先立って行われた女子クラスでは、昨年の日本選手権2位の沢田愛里が第1ランから他をまったく寄せ付けない走りを見せ圧倒。まったく危なげない走りでも東海ステージ2連覇を成し遂げた。

